

2017年度 体育学研究科(体育学専攻) 博士前期(修士)課程シラバス

科目名(副題)	開講年次(セメ)	授業形態	単位	担当者名
臨床スポーツ心理学研究	1・2年次秋学期 (2・4セメスター)	講義 ※演習含む	2	長岡 由紀子
<b>授業概要</b>				
<p>臨床スポーツ心理学は、スポーツについて個人を対象として普遍性を追求しようとする「事例研究」による手法を主な研究方法として発生した分野である。本講義ではこのような視点に立ち、スポーツにおける臨床学の位置づけと意味、及び事例の意味などについて扱う。また、スポーツ場面特有の心理的な特徴について、臨床学的視点から捉える。</p>				
<b>授業目標(到達目標)</b>				
<p>因果論的に事象を追求する自然科学的手法による研究(スポーツ心理学研究)と、縁起律的な方法論により、事象が示す意味を多義的に追及する研究(臨床スポーツ心理学研究)の違いを説明できるようになる。その上で、事例を扱う上での留意点、倫理的問題、事例の読み方など説明できるようになる。</p>				
<b>成績評価方法・基準</b>				
<p>授業中に課されるレポートの内容(50%)及び、授業中のディスカッションの内容(50%)にて評価を行う。</p>				
<b>教科書・教材・参考文献 等</b>				
<p>[テキスト] 必要に応じて、資料を配布する。 [参考文献] 「臨床心理学ノート」金剛出版 河合隼雄</p>				
<b>授業計画</b>				
	<b>項目・内容</b>			
1	ガイダンス:臨床スポーツ心理学の成り立ちについて			
2	臨床心理学研究の方法論:自然科学と臨床学の違い			
3	スポーツ場面における心理的側面での諸問題:あがり、対人関係について			
4	深層心理学の基礎:意識と無意識について			
5	心理テストの活用:質問紙法(YG性格検査)			
6	心理テストの活用:質問紙法(新版TEGⅡ)			
7	心理テストの活用:投影法(バウムテスト)			
8	心理テストの活用:投影法(風景構成法)			
9	現象を捉える視点:因果的思考と共時性について			
10	事例の基本的視点:「物語」の可能性について			
11	事例を読む:スポーツ現場の事例について			
12	事例を読む:一般臨床の事例について			
13	対人援助の留意点:心理サポートとコンサルテーション			
14	精神医学の基礎:臨床スポーツ心理学と精神医学的知見			
15	まとめ:臨床スポーツ心理学研究の可能性			
<b>履修者へのコメント・学習課題(事前事後学習)</b>				
<p>対人関係の心理的側面に関心がある者の履修が望ましい。本科目ではディスカッション等も頻回に行う。</p>				